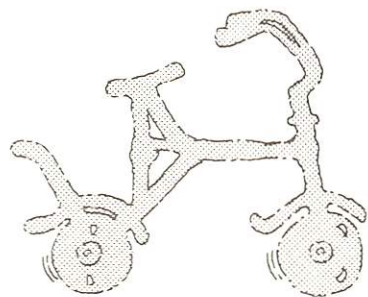


◆自然を守る

かつては、武蔵野特有の雑木林や田畑の緑でおおわれていた福生市も、いつの間にか、緑は面から帯に、帯から線へと悪化をたどり、今や線から点にまでなりかねない現状にあります。

また、多摩川や玉川上水の美しい流れも、水資源の枯渇から水量は減り、徐々に昔の姿を失いつつあります。

このような中で、失われゆく緑を守り育てるため、昭和46年に『市の木、市の花』を定め、公共施設に植樹をするとともに、47年からは、出生児に市の木を贈呈しています。また、一定規模の農地などを引き続き5年間肥培管理する人に奨励金を交付しています。さらに50年度は、玉川上水の自然を生かした公園づくりを計画しております。



ホタルの自然発生もみられる玉川上水



市内に6カ所ある家庭菜園

